

(別紙)

## 「2025年日本国際博覧会 パビリオン出展」審査委員会 審査結果（総評）

- 過去5度、日本で開催された万博において、日本経済・社会をけん引してきた数多くの企業・団体が民間特有の自由な発想や構想力で、時々々のテーマを解釈し、時代性の反映と共に未来への期待を膨らませる魅力ある展示を行ってきた。
  - 今回の大阪・関西万博においても、現在の日本経済・社会をけん引する企業・団体や、これからの日本の進むべき道筋を提案するチャレンジ精神に満ち溢れた企業・団体、地元大阪・関西の活力を感じさせる企業・団体、NPO等から、相当数かつ独自の視点や表現に基づく多彩な応募があった。
  - 「いのち輝く未来社会のデザイン」という本万博のテーマに沿って深く考えられた提案や、参加者が当事者として主体的に参画できる仕組みの提案、地球規模の課題をその背後にあるものを含めて考えさせるスケールの大きな企画、来たるべき未来と人類の可能性を展望する企画。一人ひとりがいのちを見つめ直す機会を提供する提案など、2025年の日本で開催する国際博覧会にふさわしい企画・計画、企業・団体が出揃った。
  - 審査で選ばれた出展予定者は13者。以下のとおりである。
    - ・飯田グループホールディングス株式会社
    - ・一般社団法人大阪外食産業協会
    - ・住友 EXPO2025 推進委員会
    - ・特定非営利活動法人ゼリ・ジャパン
    - ・玉山デジタルテック株式会社
    - ・電気事業連合会
    - ・一般社団法人日本ガス協会
    - ・日本電信電話株式会社
    - ・株式会社バンダイナムコホールディングス
    - ・株式会社パソナグループ
    - ・パナソニック株式会社
    - ・三菱大阪・関西万博総合委員会
    - ・吉本興業ホールディングス株式会社
- (五十音順)

○個別提案の内容について、現時点では公表しないが、未来の日本と世界のサステナビリティに向けた大きな期待、万博成功に向けた確かな手応えを感じる内容となった。企業・団体が社会的責任や地球的規模での課題に真正面から向き合った提案が多数あり、民間パビリオンへの期待が膨らむ。

○魅力溢れる民間パビリオンの実現に向けて、各出展予定者に対しては、具体的に以下のことを期待する。

- ・コロナ禍の時代にも合った本万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマを、各出展予定者が、それぞれの解釈により、来場者にわかりやすく伝え、未来に向けて明確な方向性を示していただきたい。

- ・また、2025年は、本万博が掲げるSDGsの取り組みの集大成を示す機会であり、かつその先を見据える良い機会でもある。各パビリオンでは、SDGsの先にある未来を提示いただきたい。

- ・さらに、過去の万博においても、民間パビリオンは高い人気を博したが、「アート」や「遊び」といった側面にも意を用い、来場者が楽しめる内容としていただきたい。

○開幕まで間もなく3年。計画、設計、建設、展示準備を考えると、時間は限られている。2025年日本国際博覧会協会に対しては、出展参加する企業・団体との「共創」のプロセスを通じ万全の準備で臨んでほしい。

以上